

事業所名

佐賀整肢学園こども発達医療センター 放課後等デイサービス

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

14日

法人（事業所）理念		基本理念「感性」「先進」「情熱」時代の要請を的確に把握し、総合力を高めて医療・福祉サービスの提供に、先進的かつ積極的に取り組む。		
支援方針		「利用者本位」利用者とその家族の思いをわが思いとして、利用者の明るく、充実した暮らしの実現に努める。 「自己研鑽」医療・福祉の専門職としての熱意を持って、常に自己研鑽に努め、利用者の処遇向上に努める。 「地域貢献」地域の医療福祉の拠点施設として、その機能と役割を十分に発揮して、地域社会との連携に努める。		
営業時間		授業後 14:30～17:30 ※家庭状況を勘案しての延長支援あり。最長で19時まで受け入れ可能。	休日 10:00～15:00 ※家庭状況を勘案しての延長支援あり。最長で8:30～19:00までの受け入れ可能。	送迎実施の有無 金立特別支援学校迎えのみ
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	感染症の状況に留意し、本人及び家族・学校・関係機関と協力しながら感染防止に努めます。年齢を重ねる度に、身体・心に変化がおこります。痙攣発作等様々な疾病を抱えている児は、体調や体の変化にあわせて対応を検討する必要があります。医療機関と連携を図りながらサポートを行います。成長や体の変化に伴い、できる事が増えたり、逆にできなくなってしまうこともあります。本人や家族の思いに寄り添いながら、本人に取り組んでいただくことと、サポートすることを整理して本人が望む生活に近づける事ができるよう支援を行います。		
	運動・感覚	個別に支援では、ちいさなデキル事に注目します。デキル事を楽しみながら、体のコントロールをする練習を行います。練習を積み重ねた中で、デキル事を広げて目的と行動の一致を目指し更なる意欲や達成感を育てていきます。療育活動では、五感への刺激を留意して、体の感覚やさまざまな感触に触れることによって感覚の成長を促していきます。		
	認知・行動	一人一人の個性・特性と卒業後の進路に合わせた、目標と課題の明確化を図っていきます。本人・家族・関係機関と連携を図りながら、サポートを行います。目標と課題に合わせた支援を行い、急がずにスモールステップでの確実な行動を促していきます。本人が楽しいと感じ取れるように関わり方や内容を工夫いたします。		
	言語 コミュニケーション	一人一人の個性・特性と卒業後の進路に合わせた、目標と課題の明確化を図っていきます。目標と課題に合わせた言語・コミュニケーション方法について学んでいただきます。例）卒業後：就職＝自発的な、報告・連絡・相談等のソーシャルスキルの構築を目指す。卒業後：生活介護＝個性・特性を整理し明確化を図ったうえで支援事業所等関係機関と共有を図ります。※言葉だけでは難しい場合には、自分の個性・特性をまとめた自分紹介状にて、コミュニケーション円滑化を図ります。		
	人間関係 社会性	一人一人の個性・特性と卒業後の進路に合わせた、目標と課題の明確化を図っていきます。本人の個性・特性にあわせたソーシャルスキルの習得を目指します。例）卒業後：就職＝自発的な、報告・連絡・相談等のソーシャルスキルの構築を目指す。卒業後：生活介護＝個性・特性を整理し明確化を図ったうえで支援事業所等関係機関と共有を図ります。		
家族支援		食事（昼・夕食）の提供や入浴支援の提供により家族の介護負担軽減を図ります。※常食だけでなくペースト食の提供且つ注入も可能。緊急時の受け入れを状況にあわせて実施しています。家族のニーズや困りごとについて、勉強会や情報共有の場を提供しています（ほのほのcafé）。	移行支援	本人・家族・関係機関と情報共有を密にします。卒業後の進路先と、必要にあわせて情報共有しスムーズな移行をサポートします。
地域支援・地域連携		インクルーシブに交流できる場・機会を設けています。※積極的なボランティアの受け入れや中学生の職場体験受け入れ実習の受け入れをおこなっています。事業所全体の取り組みとして、地域公開講座や秋祭りを実施し地域に開かれた事業所作りを図っています。	職員の質の向上	事業所内の勉強会にて質の向上を図ります（看護・看護助手勉強会、センター勉強会、避難指導、虐待防止など）。各種勉強会にも参加しています（全国重症心身障がい児・者日中活動協議会研修会など）。
主な行事等		地域の公園にて遊具遊び及び季節の花鑑賞（桜、菜の花、秋桜など）。初詣（地域の神社に初詣）。夏期療育活動（クッキング、昔あそび、水遊び、eスポーツ大会等）。冬期（クリスマスクッキング、昔あそび、eスポーツ大会等）。		